



学生数/約9000人  
 学部/グローバル、経済、法、文、人間科、工、教育、薬、看護  
 大学院/文学研究科、言語文化研究科、法学研究科、政治経済学研究所、人間社会研究科、仏教学研究科、  
 環境学研究所、教育学研究科、薬学研究科、看護学研究科

CASE STUDY

# 国際化の自分ごと化

## 武蔵野大学

担当部署だけの「出島のな国際化にとどまる大学が多い中、全学的に取り組み武蔵野大学。各学部と共に国際化を推進するうえでのポイントについて話を聞いた。

### 国際化ビジョンと数値目標の共有

本学の国際化は、2018年に改訂した「国際化ビジョン100」をベースに進めています。これは、ブランド・ステートメントである「世界の幸せをカタチにする。」に基づく人材育成を、国際化の面から推進する工程表で、2024年の創立100周年を見据えて取り組んでいるものです。教育内容や研究環境、外国人留学生受け入れ、学生の海外派遣、組織体制・ガバナンスの5項目について数値目標や達成期限を定めており、推進責任者は学長です。

例えば、学生の海外派遣。2024年に日本人学生の留学経験者比率を、国際系の学科は100%、それ以外の有明キャンパスの学科は50%とするのが目標です。

こうした全学での目標は各学部の年度目標に連携され、活動の内容が具体化されます。そのため、全ての教職員にとって国際化は、「自分ごと」になっていくのです。

目標が全学的に共有されていることで、実行面での連携も進んでいます。協定校を中心に海外の研究者を招いて講義を行う「インターナショナル・レクチャーズ」は、当初、国際交流の一環として国際センターが主導していましたが、しかし今では、専門教育とのつながりを重視し、学部・学科が中心となって企画を立て、招聘する研究者の人選を行っています。法学部や人間科学部などでは、この取り組みを通じて独自に海外大学との関係強化を図っています。

このように国際センターで制度設計した企画を、各学部が発展させるサイクルにより、国際化の全

### 学展開が推進されています。世界の諸課題を自分ごととする

学生自身の活動も国際化の全学展開に寄与しています。1年次に全員が参加する「ワールド・スタディーズ」(左ページコラム参照)は、国内中心のプログラムではあるものの、本学の国際化のベースとなる取り組みです。自分の日常とは違う世界に飛び込み、現場で起きていることを実際に見ること、自分の世界を広げ、課題の存在に気づいてもらうことが活動の狙いです。世界の諸課題を「自分ごと」として受け止める姿勢は、国際交流の基本だと言えるでしょう。

また、「グローバルリーダーシップ・プログラム」(以下、GLP)で入学してきた学生たちは、学内



国際センター長 ドナ・ウィークス

Donna WEEKS ● 2003年オーストラリア・クイーンズランド大学博士課程修了。学部・大学院時代に日本に留学。日本の大学で研究活動を展開し、2016年武蔵野大学法政学部政治学科教授。2018年同大学国際センター長。日豪関係、日本政治論、国際関係論などが専門。

に留学を普及させる起爆剤になっています。GLPは入試で選抜を行い、年1回、3年次までに最大3回まで参加費用全額免除で海外の語学研修やインターンシップに参加が可能な特待生プログラムです。2019年度入試では、5学科で40人を募集しています。彼らは海外研修に参加した後、さらに長期留学に挑戦したり、留学フェアなどを通じて積極的に留学経験を発信したりしています。その姿や体験談に刺激を受けて、「自分も行ってみよう」と、学生たちの間に留学が浸透していきま

2019年度からは、グローバルコミュニケーション学科で2年次を対象として半年間、アメリカ・ELSへの全員留学が始まりました。留学経験者が増えることで、本学の国際化はさらに加速すると期待しています。

\*英語教育機関。大学内に学習センターを開設している

## めざすグローバル人材像 > 世界の多様な人々と響創しながら世界の幸せのために行動できる人材

### グローバル学部グローバルコミュニケーション学科の学生(日本人)のモデルケース

	入試	1年	2年	3年	4年
<b>教養・専門教育</b>		武蔵野BASIS 全学共通の教養教育プログラム  基礎ゼミ 基礎的な知識と学習スキルを修得  (留学前準備講座) 留学の目標設定・行動計画、 チームビルディングなど	武蔵野BASIS 全学共通の教養教育プログラム  プレゼミ  グローバル スタディーズ	ゼミ/課題研究演習 より専門的な調査・研究を行う  卒業論文 グローバル・イシューに関する 課題発見・解決、多文化 理解に基づく創造的思考力	
<b>語学教育</b>	●全学科を対象に「英語外部検定活用方式」(みなし得点)を実施 ●日本語コミュニケーション学科、グローバルビジネス学科、経営学科、経済学科、政治学科の5学科で、グローバルリーダーシップ・プログラムを実施	英語演習科目 English for Qualifications/ Practical Communication  中国語演習科目 資格試験演習(初級)など	英語演習科目 Integrated Skills for Qualifications/ Integrated Skills for Communication  中国語演習科目 資格試験演習(中級)など		
<b>留学・国際教育</b>			全員留学(必修) 実践的な英語コミュニケーション力、アカデミック英語、異文化共生力の深化	学部留学(任意) アメリカの協定校への留学。留学先大学で学部の授業(リベラルアーツ)を履修	協定留学認定留学(任意) 英語圏、中国語圏の大学に半期から1年間留学

## 注目! 世界の現場に飛び込み課題に気づくフィールド・スタディーズ



アメリカ医療最先端の地、ロサンゼルス市の病院や施設を訪問する海外FS。異文化ならではの刺激を受け、日本の医療の今後の課題について考えを深める機会となっている。

学外学修プログラム「フィールド・スタディーズ」(以下、FS)は、1年次の必修科目になっている。そのため、2学期から夏休みにかけて約2,000人もが一緒に学外学修に取り組む。

2013年度に15プログラムでスタートして、2018年度には長期(1か月程度)62、短期(1週間程度)35の合計97プログラムを数えるまでに発展。特色ある教育として、文部科学省「大学教育再生加速プログラム(AP)テーマIV 長期学外学修プログラム(ギャップイヤー)」に採択されている。

長期プログラムは、現地の方々と一緒に働くことを通じて、現場の課題を共に考えるものだ。日本でのインターンシップや地域活性化のプロジェクト活動のほかに、イギリス、カナダ、オーストラリアの大学への留学プログラムなどがある。

一方、短期プログラムには、海外での企業やビジネス現場、学校や医療施設の見学、国内でのフィールドワーク、ボランティア活動、体験学習などがあり、さまざまな形で現場を体感できるプログラムが準備されている。

2、3年次には選択で「学部横断型ゼミ(サブ・メジャー)」や「学科FS」で学外学修をさらに深めることもできる。現場体験を通して、課題を発見する目を養い、「アクティブな知」の獲得と「思考力・表現力を備えて世界の課題に立ち向かう」人材育成を行っている。